

E-6 共働き家庭における家事労働のあり方と住空間について (第1報)
三重太教育 ○岡部典子 中島孝代子

目的 近年共働き家庭は増加の傾向にあり、すでに共働き家庭は、特殊な形態というより一般的、普遍的な問題として捉えられる様になった。しかし、共働き家庭とは、特に主婦は、時間的、空間的に多大な矛盾を抱えていると知られる。そこで、この共働き夫婦の、時間的、空間的な矛盾と、家事労働のあり方、又それと密接に関係を構つてまいのあり方を考えることにより、解決方法を探る、というとするものである。

方法 津市内の小学校の教員を対象に、共働き家庭における家事労働の合理化状況と、家事労働に対する考え方、又それらと対応する、家事労働空間と住空間についての調査を行った。調査時期は、昭和55年7月中旬～下旬、調査サンプル数は、131世帯を得た。

結果

1. 家事合理化と実態において、家事労働の性質(創造的家事労働とサービス的家事労働)により、好ま嫌いに差がみられた。(図らん化と関係)
2. 頻度、労働強度と合理化との間に関連がみられた。
3. 家族形態(家事労働量)により、合理化と図らん化に差がみられた。
4. 家事の合理化と図らん化にある関連がみられた。
5. 今後、共働き家庭の毎日の家庭生活として、核家族で、男性、代替合理化がなされ、又逆に図らん化もなされる家庭を指摘することができる。